

天才アート KYOTO



天才アートとは、障碍
のある人の多くがもつ
優れた感性と表現力、
そこから湧き出る独

創的なアート作品に対して、特定非営
利活動法人 障碍者芸術推進研究機構
(天才アート KYOTO) が独自にネーミ
ングしたものです。当機構は天才ア
ートを推進し、その啓発・普及活動を積
極的に行っています。

会 報
No. 25

天才アート

発行日 2021年2月10日 (水)

発行者 特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六



『無題』石田 百恵 Momoe Ishida 2002年生 W440xH310mm 紙・ペン 2020年制作

展 覧 会

開 催 中

『天才アートがやってきた!! 公共空間にアートの彩り!!』展 (開催中)

2018年より市内の各所で実施してきた『公共空間にアートの彩り!!』展を、2021年2月1日(月)より3月28日(日)まで四条通り地下通路(阪急電車所管)を会場に開催しています。

本展は、当機構の「作品アーカイブデータ」を活用して、高精細の作品画像をB1サイズのポスターパネルにして展示するものです。ややもすれば無機質になりがちな連絡通路や地下通路といった公共空間に「アートの彩り」を与え、華やきを演出すると、通行する市民などから大きな反響と好評を得ています。

本年は京遊連社会福祉基金の助成を得て、新作品を中心に新たなパネルを追加制作しました。地下通路の四条通麩屋町通りから同柳馬場通り間150mにわたって作品ポスターパネル70点を展示しています。期間中に四条通近辺においての際はぜひご鑑賞ください。

なお、ポスターに配置したQRコードから「天才アートKYOTO」のホームページにアクセスしていただくと、作品や作品ポスターパネルの購入問い合わせができるようになりました。購入希望の作品やポスターパネルがありましたら、どしどしお問い合わせください。



開催中の『公共空間にアートの彩り!!』展の作品に見入る通行人

事業統括 京都市歩くまち京都推進室
展示企画 NPO法人障害者芸術推進研究機構
展示協力 阪急電鉄株式会社
助 成 公益財団法人京遊連社会福祉基金

展 覧 会

報 告

天才アート展2020 「オープン・スタジオ」 を開催

2020年9月26日(土)から10月4日(日)までの9日間、第8回天才アート展2020「オープン・スタジオ」を当機構の拠点である天才アートKYOTO 新道アトリエ(元新道小学校)にて開催しました。通常、アトリエには一般の方の見学を受け入れていませんので、今回のように全面公開して展覧会を開催するのは初めての試みでした。

本展では、普段制作をしているアトリエ

を会場に、制作場所の横に作品を展示することで制作中の作品を含めて、まさに「いま、ここで」作品が生まれる臨場感のある展示を行いました。来場者からは「創造の現場を目撃できることがうれしい。あの作品がこんな風に作られているとは…」といった声から、「アトリエスペースそのものがまるで作品みたい」などとさまざまな声が寄せられました。

また小企画として「いろいろ」「ものもの」も別教室にて同時に開催しました。「色」をキーワードに、多彩な色でつくられた作品の部屋と、白黒のモノクロで作られた作品の部屋で構成することで、天才アートKYOTOの登録作家たちもさまざまな制作スタイルを感じていただけました。

今後も「オープン・スタジオ」や記録映像の公開などを通じて、作家たちの制作の現場の熱量を感じてもらえる発表の場を作っていきます。



第2回京都市障害者芸術作品展 「ウチからソトへ」 ソトからウチへ」

第2回京都市障害者芸術作品展が11月14日（土）より23日（月・祝）まで9日間（16日月曜日休館）、中京区にある堀川御池ギャラリーにて開催されました。

本展は、市内の障害福祉事業所や総合支援学校でアート創作活動に取り組むアーティストの作品を一堂に展示するもので、京都市より天才ART KYOTOが委託を受けて運営しています。新型コロナウイルス感染拡大により開催が危ぶまれましたが、感染予防対策を徹底して無事開催に至りました。

コロナ禍であっても、作業所や学校、そして自宅などの「ウチ」で制作を続けるアーティストの創造エネルギーとその作品を、「ソト」である社会へ発信することをテーマとして、新たな作家24名を含む54名の作



品560点を展示しました。コロナの影響から昨年の来場者数より半減しましたが、9日間の会期中に441人の来場者があり、アンケートを見ると第1回からのファンや他都府県の方も多くありました。

なお本展は第1回展同様に、希望者に出展作品を販売し、7件の申し込みがありました。また、新たな作家・作品より50点程度を昨年度立ち上げた京都市障害者芸術作品アーカイブ（略称「KAPWAD」）に追加予定です（2021年3月にデータアップ予定）。

東山区人権啓発展示

本展は東山区より依頼を受けて毎年8月に実施していますが、新型コロナウイルス禍の余波により、今年は12月1日（火）より11日（金）までの開催となりました。

本年度7年目となる今展では、これまでの原画展示ではなく、当機構の1300点を超える作品アーカイブを活用した「作品ポスターパネル」31点を展示しました。

この作品ポスターパネルはB1判サイズ（タテ1030×ヨコ730ミリ）で、東山区総合庁舎1階の展示ホールを全面使用した展示は、作品を一堂に鑑賞できると好評でした。

なお、このポスターパネルを使った作品展示は、公共地下道などでの『公共空間にアートの彩り！』展での活用など、今後も展示の機会を増やしていく予定です。

「こねこねコネクト つながる世界 CONNECT↕天才 アートKYOTO」展

2020年12月9日（水）から12月13日（日）まで、「こねこねコネクトつながる世界 CONNECT↕天才アートKYOTO」をkokoka京都市国際交流会館にて開催しました。

本展は文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業」である「CONNECT↕」（コネクト）の関連プログラムとして企画されました。「CONNECT↕」とは障害のあるなしに関わらず、さまざまな感性・特性を持つ人たちが芸術や文化、歴史に気軽にアクセスし、



会場風景（撮影：守屋友樹）

さらに参加した人たちが同士がつながり合い、気づきを与え合う機会となることを目指すプログラムです。

展覧会場では、当機構の登録作家（8名）による作品227点を、京都市国際交流会館所蔵の京都市各姉妹都市・パートナーシティの紹介パネル・工芸品等と共に展示をしました。

古来より人が何かを作り上げてきた想像力は国を超え、歴史の中で脈々と受け継がれてきました。文化を基軸とした都市運営をしている京都市もまた、パリをはじめ多くの文化都市と姉妹都市・パートナーシティ提携を結び、国際的な文化交流を行ってきました。

その京都市を拠点とする天才ART KYOTOのアーティストによるその作品も、決して社会や歴史と無関係に作られたもの

ではありません。多くの作品はモチーフやスタイルなど、意図せずとも社会や歴史から大きく影響を受け、そして未来へと想像力を引き継いできました。いかなる状況下においても決して途切れることなく脈々と流れる、人々の豊かな想像力が「つながる世界」をキーワードとしました。

京都桂川ロータリークラブ主催

「第2回心の絵展」に出展

京都桂川ロータリークラブ主催の「第2回心の絵展」(会期: 昨年12月1日(火)から6日(日)、会場: ギャラリーエヤマシタ)が開催されました。同展は、障碍のある方の社会参加がより広がることを願い、アートに取り組む京都の社会福祉事業所や総合支援学校で制作された作品を展示されているもので、天才アートKYOTOから7人の作家が参加し、56点の作品を出展しました。来場者は、どの作品も興味深く鑑賞され、大胆さや緻密さ、鮮やかな色彩など、それぞれの作品の特徴に関心と感動の声をあげていました。

「心の絵展」は、今後も京都桂川ロータリークラブの継続事業として開催を予定されています。



ギャラリーの2階に展示された天才アートKYOTOの作品

下京区

『まちなかギャラリー』展

ホテルエミオン京都1階ロビー



会場風景

昨年12月22日(火)より1月21日(木)まで、下京区ふれあい事業実行委員会主催で「下京 Art & HISTORY ~ Art のチカラでまちに元気を!!」のアーティストイベントに出展しました。

会場は、昨年夏に開業した『ホテルエミオン京都』の1階メインロビー。2階まで吹き抜けで物販店やレストランが回廊のようになつて、ゆつたりとした展示・販売空間でした。

このイベントは、下京区内のレストランやカフェ・物販店・ホテルなどを会場に作品を展示し、「アーティストには作品の展示・販売の場を、お店には新たな来訪客やファンの拡大の機会を、来訪者には身近にアートに触れるとともに新たなお店の発見の機会を提供する、「アーティストよし」、

「お店よし」、「来訪者よし」三方よし」のコンセプトで開催されました。鑑賞者は、下京区内の歴史散歩も兼ねて楽しめるようになっていました。

登録ボランティアの活動紹介 作品アーカイブ デザイン活用



パソコンを操作してミュージアムグッズを制作

当機構は、「作品アーカイブ」を活用したミュージアムグッズの制作を進めています。これはアートデザインを得意とする登録ボランティアが、作品アーカイブデータを「スマホケース・Tシャツ・マグカップ」などにデザインし、インターネットで制作・販売代行をする〈SUZURI〉を紹介して販売しています。

使用するパソコンやタブレットは、昨年度の公益財団法人車両競技公益資金記念財団の「高齢者、障害者等の支援を目的とするボランティア活動に対する助成」を得て導入した高性能な機種で、「使いやすい」とボランティアさんの評価も高く、活動の能率も向上しています。

そして、販売による収益より画像使用料をロイヤリティーとして、原画販売などの

収益と合わせて作家に還元し、その経済的自立に貢献しています。なお、「作品アーカイブ」については、企業や団体などがデザイン活用できるよう「データ提供」もしています。

ごみ減量エコバッグに 作品アーカイブ提供

プラスチックごみによる海洋汚染問題の深刻化を受け、昨年7月よりスタートした「レジ袋有料化」から半年が過ぎ、マイバッグ持参などが少しずつ定着してきました。

京都市でも環境政策局のごみ減量推進課を中心に様々な取り組みをされていますが、こうした動きを進めるために、「エコバッグ」の制作を企画されました。このエコバッグのビジュアルデザインに当機構の作品アーカイブデータを提供しています。

海をイメージした作品と「ウミガメ」をテーマにした作品の2点を、バッグ片側にプリントしています。コットン生地製のエコバッグは、小さく折りたためればカバンやハンドバッグなどに収まる優れものです。イベント会場などでごみ減量の意識啓発や意識向上に向けて配布されます。



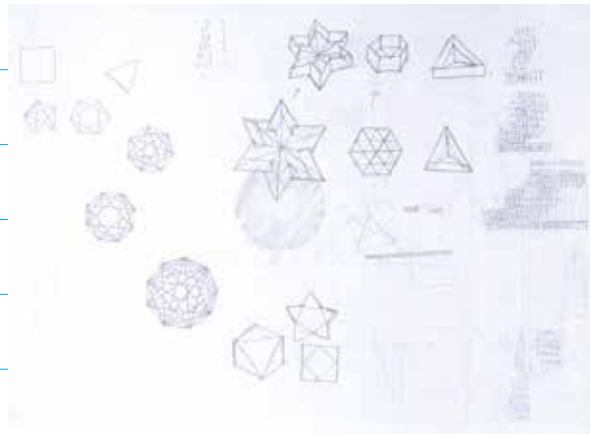
TSUCHIYA AKIOさん(左)、川田優也さん(右) 作品

TENSAI
ART
NOTE

天 オ
ア ア
ー ト
ノ ー ト



『無題』 W297×H420mm
画用紙・ペン 2020 年制作

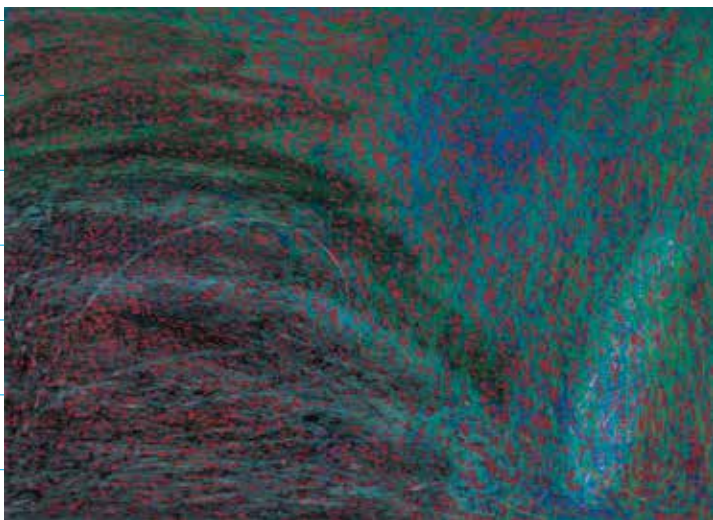


『無題』 W297×H420mm 画用紙・ペン 2020 年制作

佐野 彰洋

佐野 彰洋 Akihiro SANO 2003年生

鉛筆でドローイング作品を制作する佐野彰洋の制作方法は、常に電卓で数式を計算しながら鉛筆で描くという、非常に特殊なプロセスを経て制作されます。その制作風景を見ていると、まるで複雑な数学を計算して解き続けているようにも見えます。そこから計算で導かれた難解な数式や複雑な幾何学的形状、あるいは思考の産物とも判別がつかないドローイングが描かれます。佐野の複雑な数学の末に導かれた作品を前にした時、観客は世界の不思議な謎を解き開かず「鍵」を手に持ったような感覚になるのかもしれませんが。



『クレパスのグラデーション』 W540×H390mm
画用紙・クレパス 2016 年制作

高橋 美佳



『少年たち』
F40 号
(W803×H1,000mm
キャンパス・アクリル絵
の具 2018 年制作

高橋 美佳 Mika TAKAHASHI 1965年生

高橋はアクリル絵の具でキャンパスに、融合した身体、目、笑顔、接吻、向日葵や光り輝く太陽など象徴的なモチーフを散りばめ描くことで、人の心の深淵をのぞいたような、鑑賞者に強烈な印象を与えます。そのテーマの多くは高橋が体験した記憶が基になっていますが、同時に誰もが遭遇する普遍的な人間の因果や業のようにも感じられます。



『クレパスのグラデーション』 W540×H390mm
画用紙・クレパス 2016 年制作

川嶋 誉大



川嶋 誉大 Yoshihiro KAWASHIMA 1996年生

川嶋は色画用紙にクレパスを横にして描くことで、表裏両面にオール・オーバー（全面を覆う）な作品を描きます。完成された作品は「奥行き」や何かを描いた「形」もなく、「色彩」と「痕跡」があるのみですが、実は彼が描く時はダイナミックに身体を全部使い、時にリズムをとりながら描いていきます。激しい動きから生まれた静謐な画面こそが彼の作品の魅力の一つといっているでしょう。

『地獄の接吻』
W410×H530mm
キャンパス・アクリル絵
の具 2018 年制作

ご家族さま
より寄稿

寛子が生み出す

「増殖」

石原 睦子

●生まれてから就学まで

寛子が生まれて順調に育っていたはずが、1才半健診で私が何気なく言った「名前を呼んでも振り向きません」の一言で、係の方がみんな顔色を変えて、「耳は聞こえているか？」の心配から始まりました。それから2カ月後、4カ月後と二度も保健所で見ていただきましたが、何の変化もなかったので、児童相談所で発達検査を受けることになり、その結果、知的障害を伴う自閉症と診断されました。

知人の話や本などで、うすうす疑いは持っていました。それほど知識もなく、ただ信じられない気持ちで一杯でした。

2才から就学まで児童相談所のこぐま園や愛育園で療育を、近くの幼稚園では健常



初めてのセロテープ作品

児の中に入り、一人の先生が付きつきり保育園生活を送っていました

●セロテープとの出会い

小学校は地域の学校で育成学級があり、寛子が入って5人のクラスでした。1年生から学童へ行き、その後、5年生から学校内の「放課後まなび教室」という放課後見てくださいる所へ行きました。他のお友達は、宿題をしたり読書をしたりしている中、寛子は折り紙や切り絵、手芸など見てくださる方が丁寧に準備をしてくださり、楽しい時間を過ごしていました。

その頃からセロテープも扱うようになり、気が付いたらくると巻いては付くという作業をしていました。テープを巻く事が好きで、どこへ行ってもセロテープを見ると勝手に引く張って作り始めるのを見て、私はもったいないという理由で、前もってセロテープを隠してもらうようお願いしていました。そんな時、「放課後まなび教室」の先生が、「家にいらなくなったらセロテープが沢山あるから持ってきてあげてね」と言ってくださり、続けさせてくださったのです。最初の理解者です。そのおかげで完成した初めての作品は、現在の物とは違い山のように上へ積んでいき、まるでサグラダ・ファミリアのようでした。その作品を置いて卒業したので、後輩たちが一

つ取り、二つ取り、どんどんなくなっていく、私の了解のもと学校の耐震工事で処分となったので、残念ながら現在は写真しか残っていません。

●アトリエ会への参加

中学からは京都市立西総合支援学校へ入学しました。そこでもセロテープを隠してもらっていたので、しばらくの間は全くやっていませんでしたが、中3の時、「PARASOPHIA」（京都国際現代芸術祭）という現代アートの展覧会が京都市内の至る所であり、参加の機会を頂きました。北京オリンピックを一部プロデュースされた「爆弾アート」で有名な中国の現代美術家、祭國強さんが作った竹のツリーに、子どもたちの作品を吊るして京都市美術館で展示されるという企画で、学校内で選ばれた5人の中に偶然入っていて、用意された材料で何でも好きなものを作っていたというものです。寛子は「待ってました！」と言わんばかりに久しぶりのセロテープを巻いたのです。その時の作品が祭國強さんをはじめ、一緒に来られた芸術大学の先生や「天才アートKYOTO」関係の方々の中にあったようです。その後、学校の先生に勧められて「天才アートKYOTO」の門を叩くことになりました。

寛子の作品は作っている時のプロセスが面白いと言われています。初めて見た方は「これ、ストロー？」と尋ねて来られたり、細胞が分裂して増殖しているようにも、肥大化する未来都市のようにも見えると言っ



天才アート KYOTO の新道アトリエにて制作中

てくださいます。

材料は透明のスコッチテープ（粘着力が強く、長時間経つても黄ばみにくく、キレイが続く）の24ミリ、18ミリ、15ミリの3種類を使います。

まず、50センチぐらい引っぱって切り、それを左の手の平を上にして中指の先から肩の方へ向かって長く貼ります。右手の中指で左手の指先からテープを細く、くるくると巻いてマカロニサイズのストローのような筒ができます。それを長さの違うものと組み合わせ、どんどん横に並べてつなげていき、ある程度のところで渦潮のように丸くまとめいきます。その周りに次の組み合わせを同様に付けていき、大きくしていきます。最後は隙間を埋めるようにと、ころどころ一本ずつはめ込んで行きます。直径10〜20センチぐらいになったところで

一つが出来上り、それが集まって「増殖」という一つの作品になるのです。

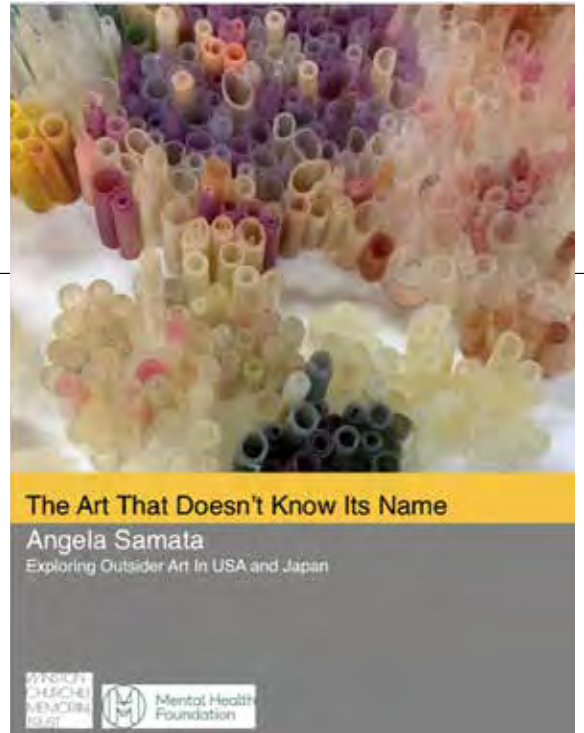
ある時からクレパスを使うようになりまし。まず紙に好きな色のクレパスで濃く塗りつぶし、その時に

出たクレパスのカスを集めて粘土のように手の平で丸めると手の平にクレパスが付きます。その手で同じようにセロテープを付けて巻いていくと、転写されて色の付いたものができます。2本目、3本目になると段々、淡い色になっていき、1本ずつ違った色でできた作品が完成します。

誰かに習った訳でもなく、まねをした訳でもなく、計算もない、ただ巻いたり、まるめたり、大好きなことを集中してやっているだけの作品なのです。2時間も夢中で続けると腕はセロテープを貼った形に真赤になり、どう見ても痛いはずなのですが、それでも私がおしまいと言うまで止めずにやり続けます。

●2020年「コロナ禍の中で」

うれしい事がありました。イギリスのアート冊子の表紙に寛子の作品を使ってくださったのです。送っていただいたデータ



イギリスのアート冊子表紙に作品掲載

を全ページ見たところ、あの憧れの草間彌生さんの作品も紹介されていて、最後のページと一緒に名前が並んでいました。私はうれしさのあまり、知人に言わずにはいられませんでした。

こんな日が来るとは思っていませんでしたが、こうして続けてこられたのも、寛子を理解してくださり、ぐずぐずしていた私の背中を押してアトリエ会へ導いてくださったさまさまな先生方、そして「天才アートKYOTO」でお世話になっている皆さまのおかげだと感謝の気持ちで一杯です。今は西陣にある「HEROES」という生活介護の事業所で、クラフトビルに携わる作業をして、毎日頑張っています。これからも欲のない娘が元気で穏やかに仕事と制作活動を長く続けていけることを願いつつ、私も静かに応援していきたいと思っています。

アトリエの移転について（予定）

2012年9月に開設以来、足かけ10年にわたり活動が続けてきた『新道アトリエ』は、入居している元新道小学校の跡地活用の正式決定により、本年3月に退去することになりました。

これに伴い、北区にあります元楽只小学校跡地・施設に他の芸術振興団体とともに本年4月に移転します。場所は千本通北大路交差点を少し南に下がった、バス停からは1分ほどのところですが。

新道アトリエについては、2012年の開設以来、制作活動が軌道に乗り、所属作家もスタート時の15名から40名を超えるまでに増え、作品も3500点を収蔵するまでになりました。2015年からは作品アーカイブ事業を開始し、現在1350点をホームページに公開して画像データの提供を始め、同時に画像データをデザイン活用したミュージアムグッズ等の制作も進めています。また、2012年から毎年『天才アート展』などの主催展覧会の開催や会報『天才アート』の発行、企業や自治体

が主催するイベントへの協賛コラボ展示など、

ど、「天才アートの魅力」を社会に発信することでも多くの固定ファンを得ました。

アトリエの開設によって多くの新たな事業に着手することができ、障碍のあるアーティストとその作品の魅力を社会に広く発信するとともに、その経済的自立や社会参加に微力ながら貢献できるようになりました。アトリエの移転後も引き続き障碍者芸術の魅力の発信に努め、関係者・関係機関をはじめ市民の皆さまとともに京都の文化芸術の進展に貢献してまいります。



京遊連社会福祉基金助成の採択

令和2年度「公益財団法人京遊連社会福祉基金助成」に採択されました。

11月27日（金）、左京区鹿ヶ谷にある同基金本部ビルでの贈呈式において助成金を

頂きました。本年度の助成金は、本会報P2の『公共空間にアートの彩り！』展の記事にもあるように、作品ポスターパネルの制作に活用させていただきます。

株式会社SCREEN HD様の 年賀状にアーカイブ作品が採用！

2021年の株式会社SCREEN HDグループ様の年賀状に当機構登録作家の作品を採用していただきました。



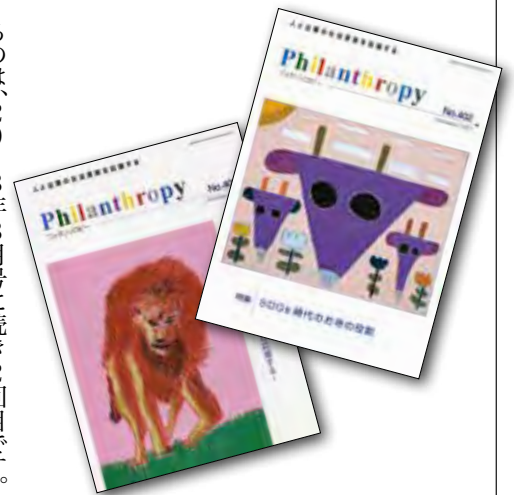
採用された作品は、TSUCHIYA AKIOさんの「もみじと牛の親子」。干支の丑にちなんだ作品で、もみじの山を背景にカラフルな牛の親子が楽しそうに草を食んでいる様子が描かれています。

同社では、昨年よりSCREENグループの年賀状に当機構の作品アーカイブの中から干支にちなんだ作品を採用していただいています。

(公社) 日本フィランソロピー協会の 「Philanthropy」誌表紙に作品採用

公益社団法人日本フィランソロピー協会が発行する機関誌「Philanthropy」の昨年10月号に三津田一輝さんの作品「ライオン」、本年2月号にTSUCHIYA AKIOさんの作品「菊の花 サファリパークの牛物語」が採用されました。

TSUCHIYAさんの作品が同誌の表紙を飾



るのは、2018年8月号に続き2回目です。このような依頼の背景には、作品アーカイブ公開が大きく寄与しています。

会員寄付および ボランティアさんを募集しています

支援していただける会員や寄付、また活動をサポートしていただけるボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページに掲載していますので、ご覧ください。
<http://tensai-art.kyoto.jp>

広告主さま募集中！

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。1枠(55×22mm)・・・1万円(4回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art.kyoto.jp

〈編集後記〉

当機構は本年8月に法人設立10周年を迎えます。また、新道アトリエも開設から足掛け10年となり、登録作家も40人を超えるまでになりました。ここまで続けてこられたのも、登録作家さんやご家族、京都府や京都市、京都市教育委員会、関係者の皆さまに加え、ボランティアの方々、事務局スタッフなど、すべての皆さまのご支援、ご協力のおかげと感謝申し上げます。

そして、4月には新たに楽アトリエに移転することになりました。これを機に制作環境のさらなる充実と制作分野の拡大、作品アーカイブの利用促進など、いろいろな課題に取り組んでいくことになります。新型コロナウイルス感染症はまだまだ収束の気配は見えませんが、そんな中にあっても、作品を生み出し、広く社会に発信していくことが重要です。天才アトリエKYOTOは、そんな創造の場と発表の場を今後とも提供していきます。これからも皆さまのご支援、ご協力をよりよくお願い致します。

【表紙の作品について】

石田は天才アートKYOTO新道アトリエでは、東京デザインランドのエレクトロカルパレードを描いています。しかし、自宅で描くのは多彩な色とあふれんばかりの言葉、そして随所にドラえもんを模したようなキャラクターを散りばめた作品です。

絵画の鑑賞法の一つに「まるで作者の頭の中をのぞいているような感覚」、または「作者と同一化する」というのがあります。観客はただ絵を眺めるのではなく、言葉の



『無題』 石田 百恵 Momoe Ishida 2002 年生
W440xH310mm 紙・ペン 2020 年制作

広告協賛企業 (順不同)

わたしたちは天才アート KYOTO の活動に賛同しています



夢、そして誇り。この街で…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

吉村建設工業 (株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360



妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修

(株) 共立ホーム
エンジニアリング

06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake